

令和5年度 地域医療実習を行った医学生のディプロマ・ポリシー (DP/卒業時の学修成果目標)修得状況【結果】

アンケート内容: 医学科6年生のDP修得状況を調査

実施方法: googleフォームを使用して、web上で実施

実施期間: 令和5年8月31日～9月15日

対象学年: 医学科6年生(合計:115名)

地域医療実習病院: 79病院

回答数: 45病院(56.9%)

依頼内容

山口大学医学部医学科は、平成29年度にディプロマ・ポリシー(DP/卒業時の学修成果目標)を改めました。所定の期間在学し、必要単位を修得した上で、ディプロマ・ポリシーで定めた知識・能力を身に付け、最終試験に合格した学生に「学士(医学)」の学位を授与しております。また、ディプロマ・ポリシーに掲げた人材養成のため、特色あるカリキュラムを編成しております。

地域医療実習で実習を行った医学科6年生の実習時点でのディプロマ・ポリシーで定めた知識・技能・態度等の到達度を把握し、今後の医学科カリキュラムの改善に活用することを目的とし、令和3年度より、地域医療実習で学生をご担当頂きましたご施設の先生方に、ディプロマ・ポリシーに関するアンケートのご回答をお願いしております。実習から期間が空いてからのアンケート依頼となり、大変申し訳ございませんが、下記の通りアンケートを実施させていただきますので、率直なご意見をご回答くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご回答いただきました内容につきましては、統計的に処理し、個別の内容を公表することはありません。

山口大学医学部医学科ディプロマ・ポリシー

<知識・理解>

1. 医療基盤力
2. 地域・国際対応力

<態度・技能・志向性>

3. 医療プロフェッショナリズム
4. チーム医療力とコミュニケーション能力
5. 自己開発力

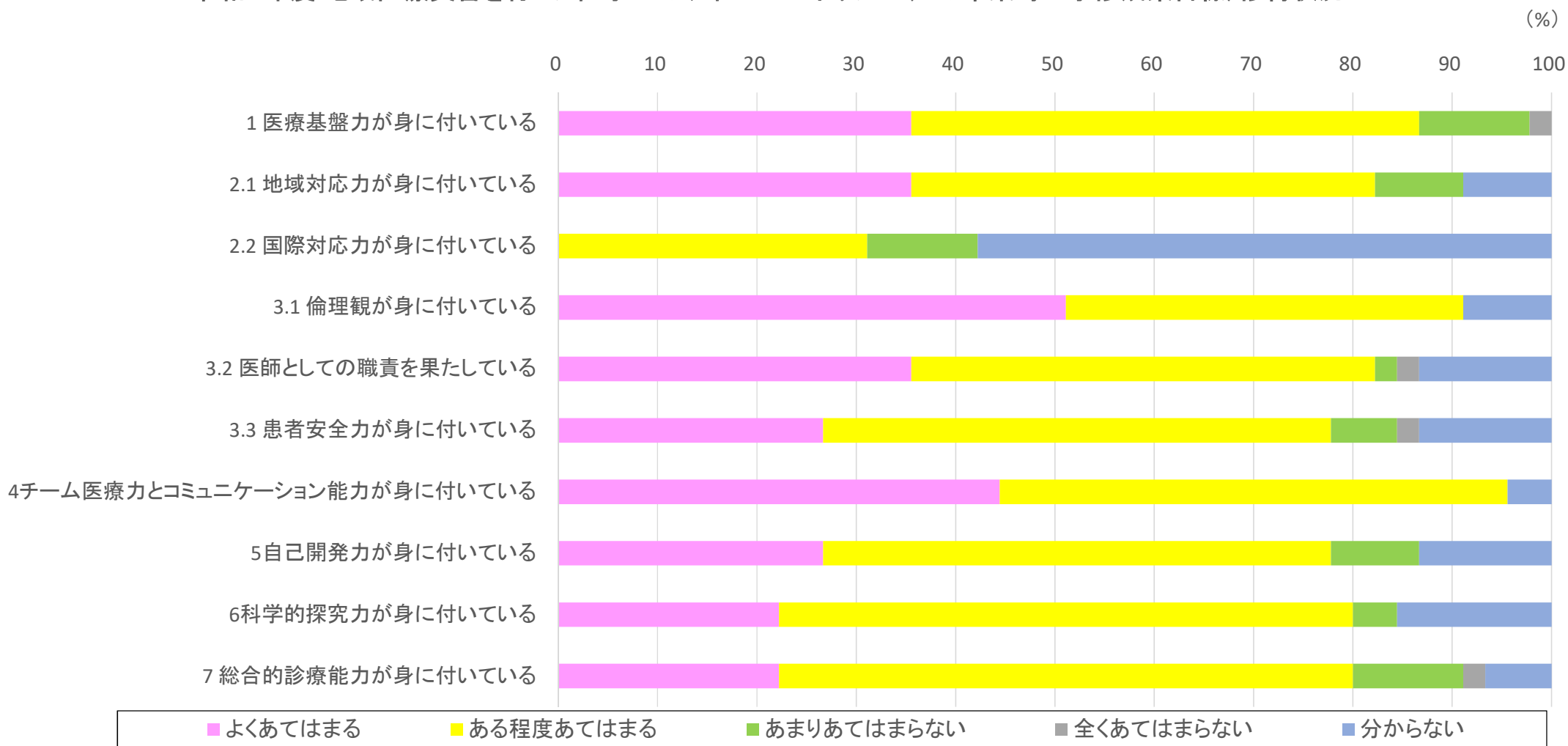
<総合力・創造力>

6. 科学的探究力
7. 総合的診療能力

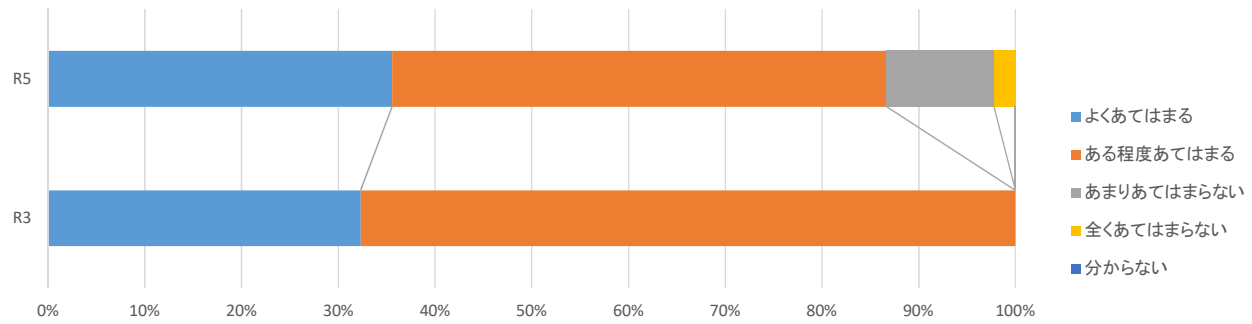
問1 地域医療実習でご指導いただきました医学生について、医学科6年生の4月の段階で修得できているレベルとして、以下の項目をご評価ください(複数名実習を受け入れていただいた場合はおよその平均でお答えください)。

回答結果

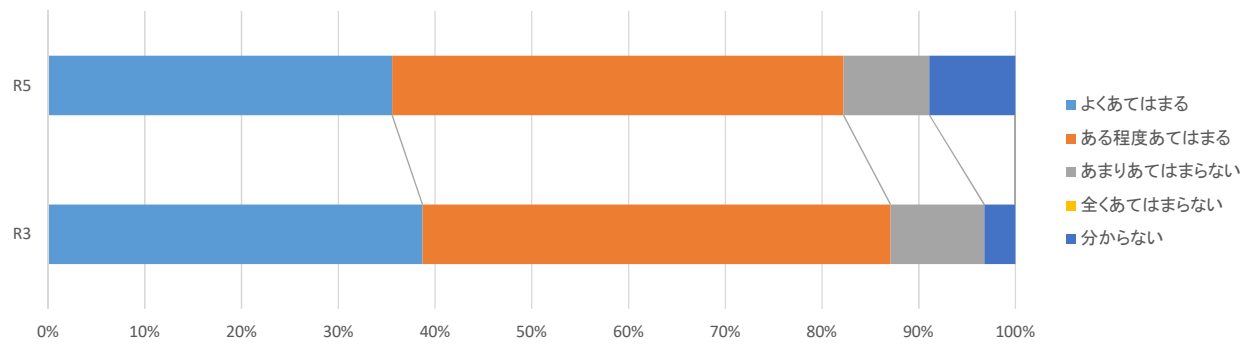
令和5年度 地域医療実習を行った医学生のディプロマ・ポリシー(DP/卒業時の学修成果目標)修得状況について



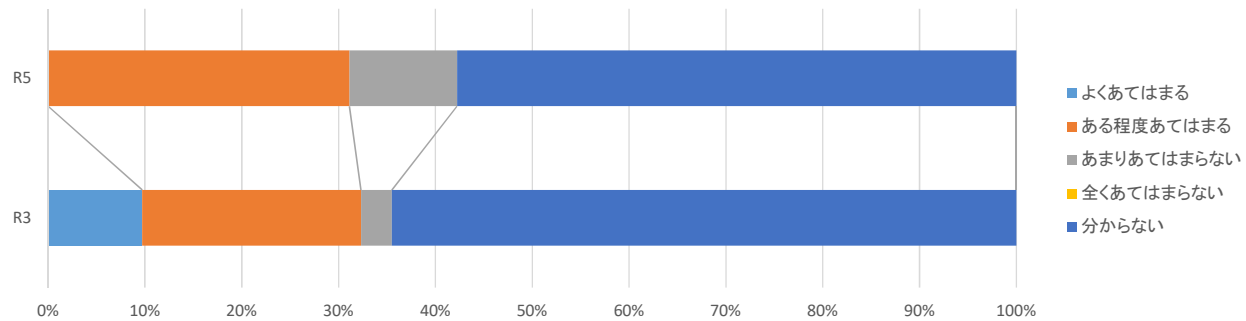
1 医療基盤力が身に付いている



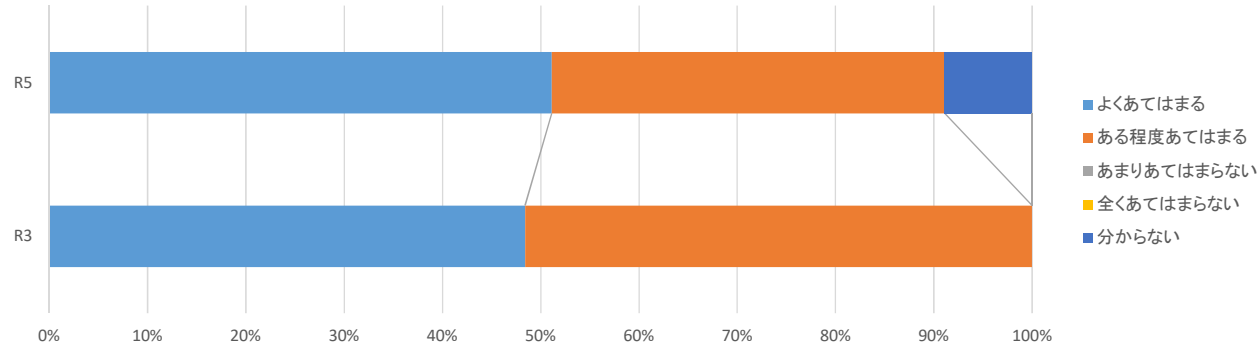
2.1 地域対応力が身に付いている



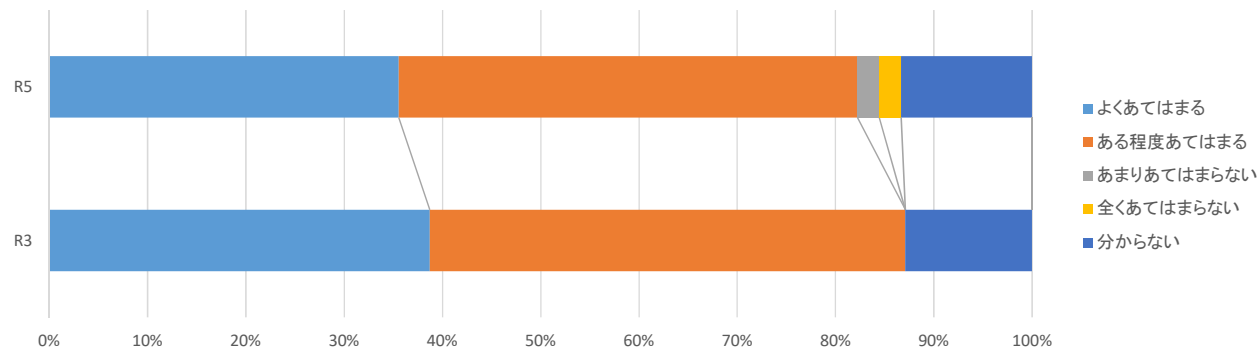
2.2 国際対応力が身に付いている



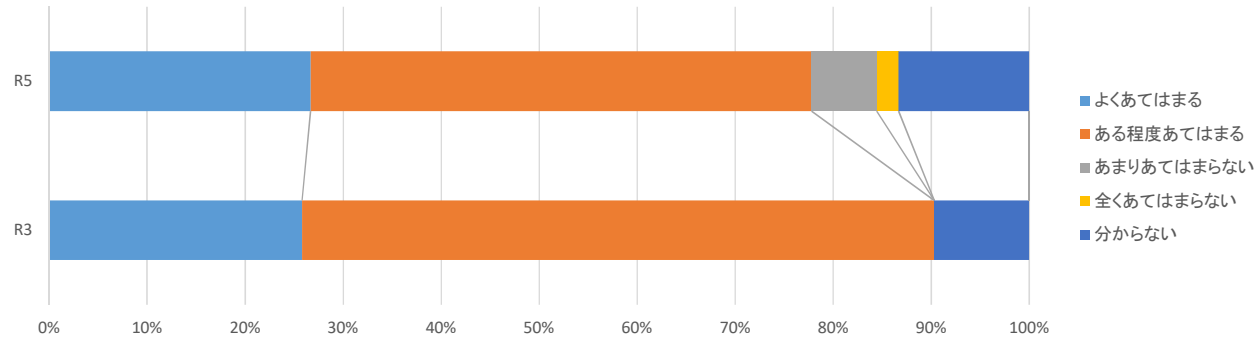
3.1 倫理観が身に付いている



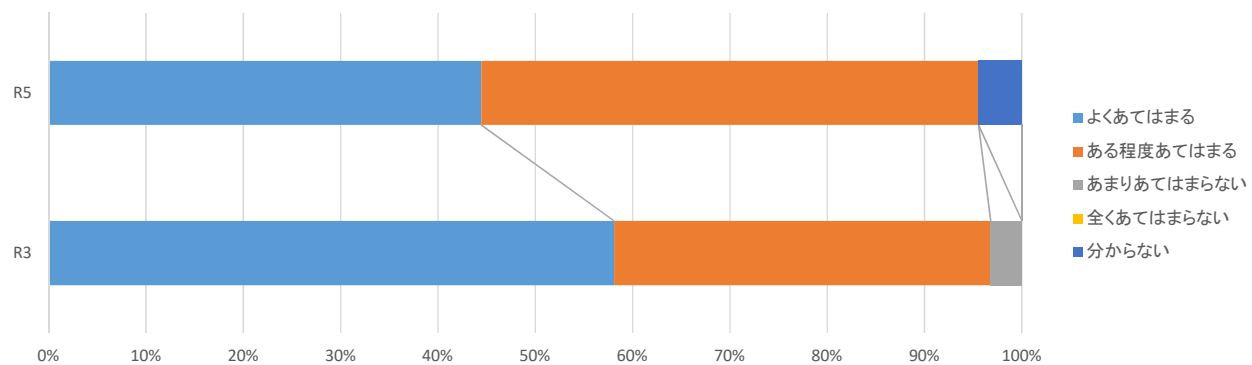
3.2 医師としての職責を果たしている



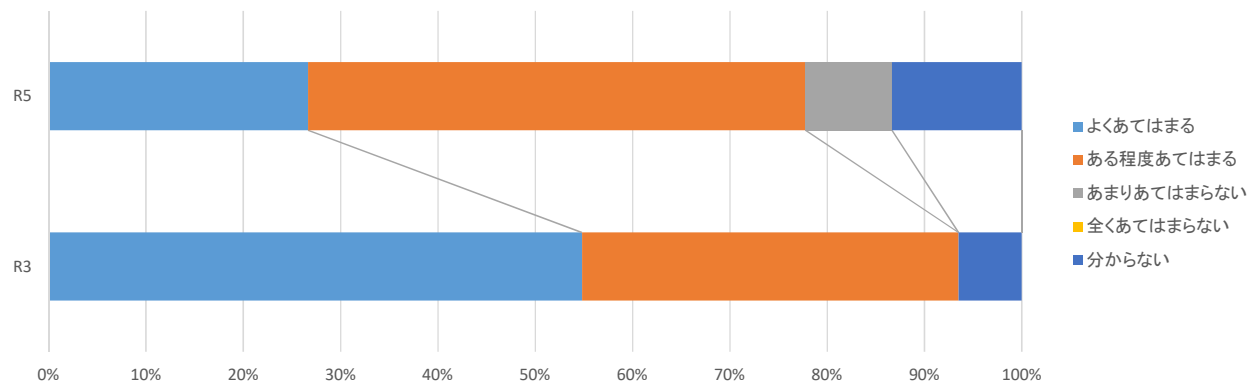
3.3 患者安全力が身に付いている



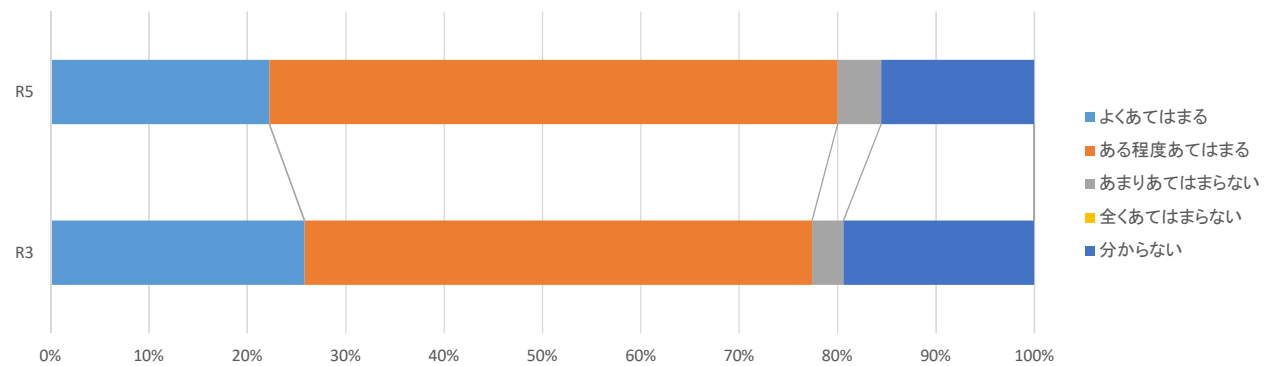
4 チーム医療力とコミュニケーション能力が身に付いている



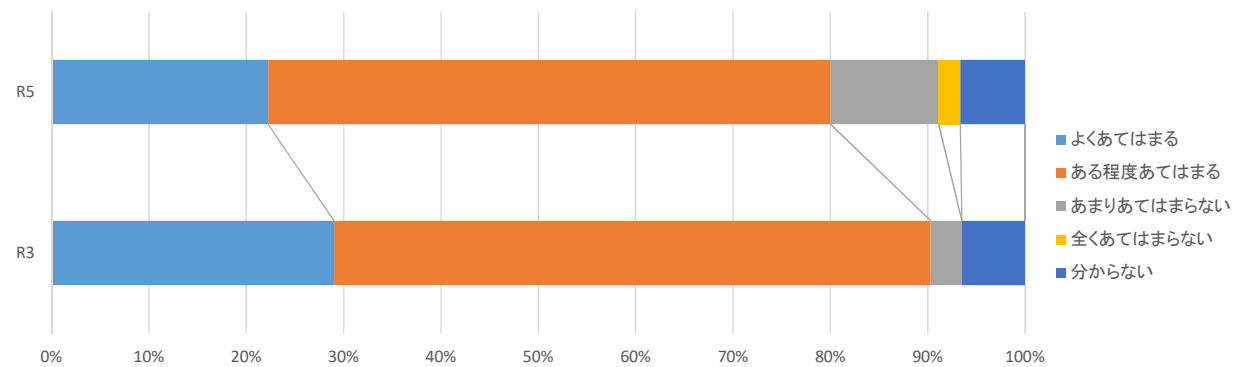
5 自己開発力が身に付いている



6 科学的探究力が身に付いている



7 総合的診療能力が身に付いている



問2 上記項目に関して、特に高く評価できた点や不十分と思われた点があれば、その理由となった経緯(実習中の知識、技能や態度等)も含め、差し支えない範囲で自由にご記入ください。

回答結果

- 当院での実習内容には限度があるため、評価するのが難しいと思われる。
- 医学生としての知識やコミュニケーション能力も十分あり、研修態度も良好でした。地域医療の抱える問題を理解しているものと思われました。
- 真面目で、謙虚に実習、勉学に臨んでいると感じた。
- 学生なので倫理観とコミュニケーション能力があれば上出来では？
- 医師としての職責
- 申し訳ありませんが、小さな診療所における3～5日の実習では上記項目について評価は難しいと思います。
- 学ぼうとする姿勢は感じられました。
- 真面目さ、誠実さはすばらしいと思います。
- 真摯に取り組まれ、質問も多くされていました。
- 個人差はありますが、知識面は一昔前の学生に比べて向上していると思います。CBT・国試的な内容は良く頭に入っているようです。そして、皆さん人柄も良く、真面目です。その一方で、患者さんに直接接触する事が少ないためか、身体診察が思うように出来ません。患者さんに触り慣れていないようです。地域医療実習のタイミングでは既にポリクリが終わり、クリクラも半分は終わっているのですが、過去数年間の地域医療実習(クリクラも含む)で聴診法による血圧測定ができた学生は皆無です。採血なども実際の患者さんは任せられないので、まずシミュレーターや実際に私の腕を貸して、私なりの合格ラインに達した学生さんには患者さんの診察や検査・処置に入ってもらっています。コロナの影響も大きいかと思いますが、それぞれの専門科のポリクリで、全身の診察を学生が自発的に行っていないことがよくわかります。たとえば眼科や耳鼻科のポリクリ中でも、受け持ち患者のシステムレビューを学生が自発的に繰り返すことでかなり技術は上達します。目の前に被検体となってくださる入院患者さんがいるのにそれはとてももったいないことのように思います。いずれ卒業すれば否応なくしなければならなくなることで、学生時代の診察技術はほどほどで良いとの考えもあるかと思います。しかし、初期研修医の先生と一緒に救急当直をしてもほとんど身体診察をせず、すぐに採血(看護師による)や画像検査にふってしまいます。ディプロマ・ポリシーにのっとり授与された「学士(医学)」の学位にふさわしい卒業生になってほしいものです。
- 受動的な学びの姿勢になっておられたため。
- 一般的な実習態度、コミュニケーション能力は身に付いているが、医学専門的な知識やその自主的な探究心が不足しているように感じた。
- 自分自身の学生頃と比較して各段に知識や実習態度が良いため、全ての項目に関して高く評価せざるを得ない。高い学力と倫理観や品行方正な態度をもって大学に入学されているのだと感じます(私生活や学外での真の姿や生活はどうか不明ですが、少なくとも当院実習中は素晴らしいです)。
- 正直、知識や技能は不十分だと思います。しかし患者さんやスタッフに対する態度は真面目で好感がもて、医師としての資質は十分あると感じられました。

問3 その他、山口大学の医学教育に対するご意見、ご希望等がありましたら、自由にご記入ください。

回答結果

- 熱心に取り組まれていると思います。改めて大変ご苦労されているかと拝察致します。教育に関してその時々様々な情報の共有、交換が出来ます事を望みます。
- 地域包括ケアシステムを中心とした地域医療の在り方、介護保険制度について、医療行政の役割や、高次医療機関としての大学病院の地域医療への関りについてある程度の時間をかけて教育することが必要と考えます。卒後研修の内容なのかもしれません。
- 応援しております。
- 小さな診療所における3～5日の実習では上記項目について評価は難しいと思います。
- 診察技術・コミュニケーション能力の向上
- 今回のアンケートは、設問が漠然としていて回答しにくいです。また、このようなアンケートがあると実習前に明示していただければ、それを念頭に置いて学生に接することができると思います。
- まず、立派な卒業生を輩出している大学の教官方にお礼を申し上げます。さて、問い2への回答とは矛盾するようなのですが、年々学生さんに余裕がなくなっているような気がしています。マッチングで重要視されるのはまず学業成績と学生さんは考えており、特にCBTなどは高得点を取らないといけないような強迫観念がある学生がいます。(それで人生が決まってしまうと考えている)そのためか、(山口大学ではなく)他大学では同級生との競争が激しく、他の人の足を引っ張って成績を落とそうとするような人もいるように聞いています。大学入学試験での競争は仕方が無いのですが、せめて学生時代は同級生同士協力して将来にわたって親交が結べるような、楽しいキャンパスライフを送らせてやって欲しいと思います。
- 地域医療実習をぽつんと6年生4月にすることに大きな学びには繋がらないと覚えます。early exposureとして医学部低学年で地域の医療や介護現場を体験することはなされていますが、その後はその体験が途切れてしまい基本bio medicalな学びに多くの時間を割き「地域」という視点から遠ざかってしまい、どこか「大学病院、大病院」にしか医療・医学が存在しないような頭になってしまっているのではないかと感じます。学習は継続することで身につくものでありますので、「地域医療」を教育の一つの目標とするならば「初期から継続的に」学びがなされるようにプログラムを作って行くことが望まれると思います。地域の現場で若い医師達を求める者として積極的に教育者と関わっていく意欲がありますので、ぜひ長期的なプログラムを作って欲しいと思います。
- フレキシブルで個別の単位取得制度・評価や医学研究の重要性の教育にさらに注力していただきたい。
- アンケートは、1ヶ月以内程度にお願いしたいです。今の時期では、かなり忘れていきます。
- 医師が素晴らしい職業であることを是非教育願います。